

市長インタビュー

**青少年を健やかに育む
環境づくり**

●青少年が成長する過程で、何が大切とお考えですか。

斎藤市長 現代の青少年にとって、苦しいことや辛いことに對する忍耐力やこれを克服する力、人に対する思いやりや命の尊さへの理解が、特に必要だと考えております。

学校では週5日制や2学期制の導入により「ゆとり」の教育を推進し、土曜日や夏休みなどを利用した体験の機会を提供しております。学校生活は、社会の縮図として、さまざまな意見や考え方を理解する場であり、子どもたちがコミュニケーション能力を養う場としての学校のあり方が、重要であると認識しております。

さらには、青少年が自然環境の中で、「自己を鍛錬し、やり遂げる達成感を体験する」「生き物とのふれあいを通して、思いやりや優しさ、命の大切さを学ぶ」ために、自然体験学習の機会を提供することが有効と考えております。

そして、「親や大人が子どもの手本となる」「子どもの心のよりどころとなる家庭の基盤をしっかり築く」ことが、青少年を健やかに育んでいくものと確信しております。

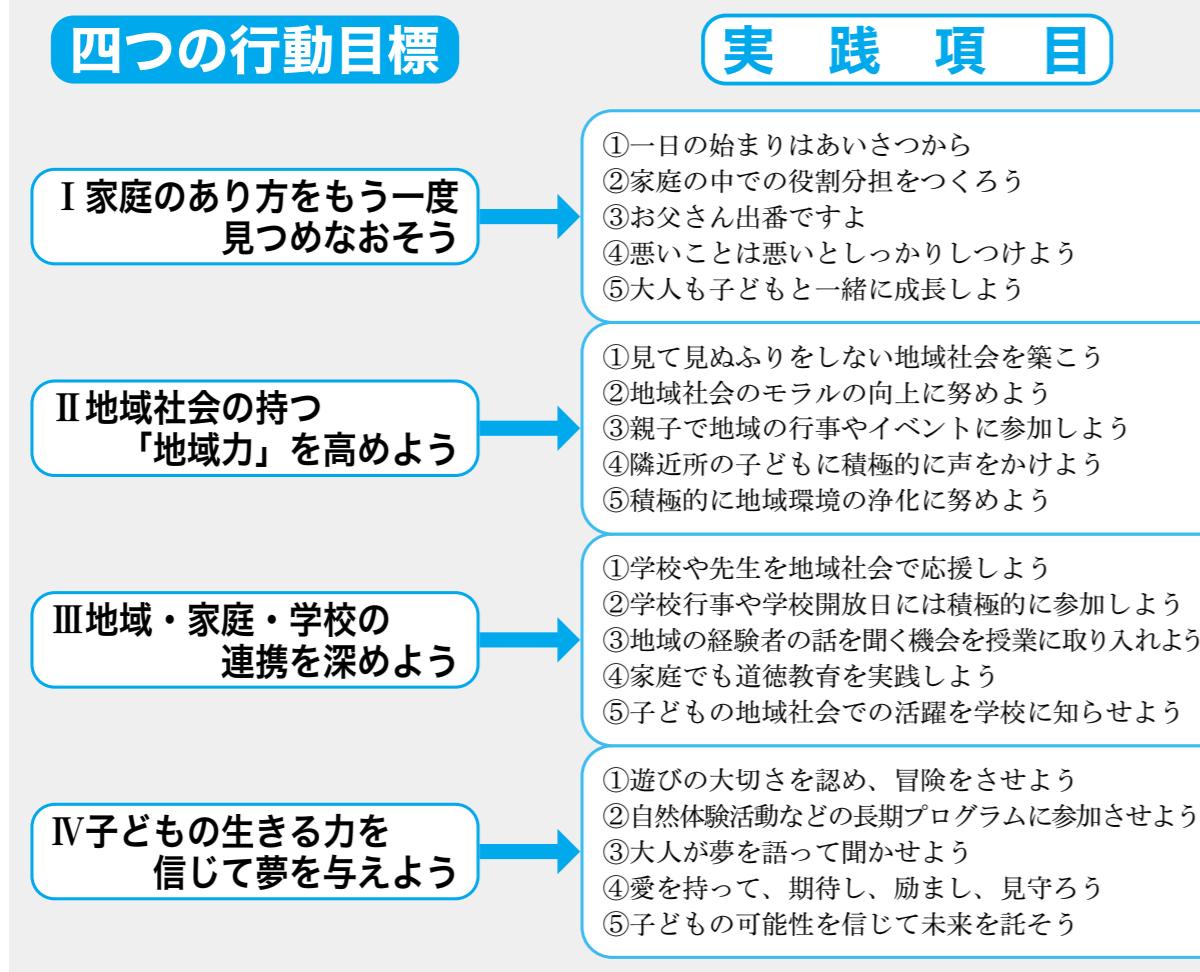
●具体的な取り組みとして、どんなことがありますか。

市長 「一日の始まりはあいさつから」。あいさつは、心に「ホッ」と安らぎを与える、人と人をつなぐかけ橋です。そして、単に「言葉」を伝えるだけのものではなく、あいさつする相手を大切に思う「心」も伝えるものです。

あいさつは、だれでもいつでも始めることができます。まずは、家庭の中で「おはよう」「おやすみなさい」「ありがとうございます」の温かいあいさつを交わすことで、「ホッとする家庭」を築き、青少年を健やかに育む環境づくりをしていきましょう。

※注：所沢市青少年問題協議会とは…
青少年の健全な育成を図るために、地方青少年問題協議会法の規定により設置され、市長を会長とし、市議会議員、関係行政機関・団体、知識経験者、公募委員などで組織されています。

■図2 四つの行動目標



今、私たちができること

始めています。こんなことから…



△愛の一聲パトロール

吾妻地区青少年を守る会連合会では、学校の登下校時間にあわせ、子どもたちの安全を見守っています。

▼まつば児童館夏まつり

民生委員、更生保護女性会、子ども会育成会、PTA、中学生を含むボランティアの方々、児童館が連携しておまつりを開催しました。青少年の地域への参加が積極的に行われています。



8-9061

私たちだもが、青少年を取り巻く環境の変化の速さや少年犯罪の増加等、昨今の青少年問題を重く受け止める必要があります。
そこで、所沢市青少年問題協議会では、幼児期から成人期における家庭や地域の役割をはじめ、青少年特有の課題をテーマとして、「青少年健全育成のあり方にについて」の議論を行なっていました。
今年は、この内容を中心に、青少年を健やかに育むためできることは何かを、一緒に考えてみましょう。
※問い合わせ 青少年課(☎2998-9103・fax299

青少年を健やかに育むために

青少年健全育成に重要なもの

青少年を健やかに育むためには、地域・家庭・学校の連携と協力が重要です。同協議会では、青少年のおかれ状況を厳しく見つめ、それぞれの領域において、だれでもすぐに実行できる具体的な内容に目を向けてみました。

三つ葉の提言

地域・家庭・学校の三つの領域は、常に重なり合う部分があり、それぞれが補い合い、連携を深めていくことが必要です。同協議会では、その重なる部分を「三つ葉」にたとえ、「三つ葉の提言」と呼んでいます。(図1参照)

地域でも家庭でも学校でも、どちらも子どもたちに声をかけ、あいさつし、時には注意し、大人が自信を持って教育力を高めていくことが大切です。地域社会の持つ「地域力」を高めよう

隣近所の付き合いや井戸端会議が少なくなっています。阪神淡路大震災のときも、頼るのは近隣の人たちでした。努めてあいさつを交わし、話しかけ、助け合い、地域でゆつたりと子どもたちを育みましょう。

●家庭では…家庭のあり方をもう一度見つめなおそう

一度見つめなおそう

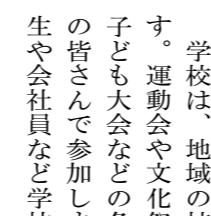
子どもは、親や家庭を選んで生まれてくることはできません。子どもにとって家庭は心のよりどころです。家庭の役割や親とし

が震災のときも、頼るのは近隣の人たちでした。努めてあいさつを交わし、話しかけ、助け合い、地域でゆつたりと子どもたちを育みましょう。

●家庭では…家庭のあり方をもう一度見つめなおそう

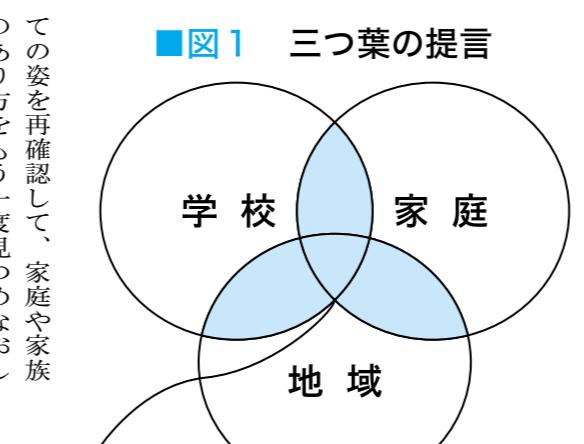
一度見つめなおそう

子どもは、親や家庭を選んで生まれてくることはできません。子どもにとって家庭は心のよりどころです。家庭の役割や親とし

△非行防止キャンペーン
青少年育成所沢市民会議と市の共催で、青少年関係機関・団体、自治会、近隣の商店街の協力を得て毎年実施しています。小学生も参加しました。

●学校では…子どもの生きる力を信じて夢を与えよう

学校では、子どもの生きる力を信じて夢を与えよう。学校は、地域の核となる施設です。運動会や文化祭、学校公開日、子ども大会などの各行事に、地域の皆さんで参加しましょう。大学や会社員など学校に関係の薄い

四つの行動目標
地域・家庭・学校の連携を深めよう！

困ったときはいつでもおいで

森倉麗子さん
(上安松在住)

私は、夫と二人三脚で3人の子どもを育ててきました。子どもには、「人に迷惑をかけないこと、人を傷つけないこと」を言い聞かせ、のびのび育ててきました。

成長した子どもたちは、今となつては用があるときにしか親のそばに来ませんが、「困ったことがあったら、いつでもおいで」と、温かい気持ちでいます。

恥ずかしさから下を向いて歩いていた子どもたちは、徐々にあいさつができるようになりました。今では、ほのぼのとした関係を築いています。

今後も継続して、子どもたちを地域全体で守っていきます。



子どもたちを地域全体で守る

泉正幸さん
(久米在住)

吾妻地区では、子どもたちとあいさつすることでコミュニケーションを図る「愛の一聲パトロール」を実施しています。各団体が連携し、子どもたちの登下校にあわせて、週1～2回活動しています。

恥ずかしさから下を向いて歩いていた子どもたちは、徐々にあいさつができるようになりました。今では、ほのぼのとした関係を築いています。

子どもの理解者は、何と言っても親の支え、温かい家庭があつてこそ、子どもが育つのだと思います。